

阿部 紋子さん (NAGAYA AOYAMA)

イメージが変わると ビジネス展開や人脈が変わる

私自身、学生時代から「印象がきつい、話しかけづらい」と言われることが悩みでした。自分にそんなつもりがなくても、印象は相手が持つもの。人と会うのも嫌な自分を変えたくて、ある日イメージコンサルのセミナーに足を運びました。そこでは、いかにもおじさんらしい風貌の一級建築士の男性が、コンサルティングを通じて「こんな人に家を建ててもらいたい」と思うような魅力的な姿へと変化を遂げていました。資格や知識ではなく「人は見た目が9割」というのは本当なんだと実感し、イメージコンサルの勉強を始めました。

人の内面は外見にも表れるもので、自信がない、人と会うのが嫌だと思えばそれが顔つきにも出ます。アメリカでは男女問わずイメージコンサルが広がっていますが、日本では、自分の印象を意識している男性はまだ少数。イメージが変わるとビジネス展開や人脈も大きく変わるということをより多くの人に実感してもらうため、男性向けにイメージコンサルティングの事業を行っています。

お客様は20～40代の方が中心です。特に最近は婚活を目的とされる方が多いですね。見た目に対する意識が薄く、学生時代に親御さんが選んでくれた服を5、6年着ているという方も珍しくありません。そこで、面談だけでなく一緒に服を買いに行くことで、ご自身の印象の変化を体験していただいています。こういうことは説得してやってもらうことでもないので難しいですね。何に興味があるのか、何を重視しているのかを汲んで理論的にアプローチしないと惹きつけることができません。そのため、丁寧なヒアリングと印象の仕組みに関する理論を説明した上でアドバイスするように心がけています。皆さん真面目な方が多く、メモを用意して熱心に質問してください。

NAGAYAには2013年から約10年、起業当初からお世話になっています。一人で事業を立ち上げたので、人と会話できるシェアオフィスという場はありがたいです。駅前の喧騒から離れた開放感も、行き詰まったときの気分転換になっています。



【資格】メンソパーソナルスタイルアナリスト / イメージコンサルタントディプロマ / プロトコルマナーディプロマ
「結婚の学校」認定婚活教育コーチ
【メディア実績】ラジオ・レインボータウン出演、ビジネス情報誌クオリタス掲載、メディアや企業・病院関連ビジネスマナー研修などを実施。

田村 桂一さん (NAGAYA AOYAMA)

挑戦し続けて到達した、 「唯一無二」のポジション



dooo 株式会社 代表取締役

デザイン、イラスト、WEB、動画など幅広くクリエイティブ業務を担う。約17年講師を務めた美術系専門学校での講義をまとめた著書「イラスト映えBOOK」も好評発売中。第2弾も近日発売予定。

自分の絵に悩みのある人は、一点に集中するがゆえに全体を俯瞰できず、絵のバランスが崩れてしまうことが多いので、「ちょっとした気付きで良くなるよ」というアドバイスを言語化した本です。6月には韓国版、年内には中国版・台湾版が出版される予定で、第2弾も企画が進んでいます。

今は受託業務が主ですが、拡張性の低さを課題にも感じています。キャラクターや漫画、動画などのオリジナルコンテンツを事業化して、自分自身がコンテンツホルダーになるのが理想です。と言い始めてかれこれ5年ぐらい経ちますが（笑）、書籍はその第一歩になればいいな、と思っています。

幼稚園の頃から絵を描くのが大好きで、高校卒業後はデザインの専門学校に進学しました。最初はイラストの制作から仕事を始めましたが、「こんなこと、できる?」というイラスト以外の相談にも「できます!」とどんどん挑戦していくうちに、今はイラストだけでなくWebデザインから動画コンテンツ、子供向けYouTubeチャンネルの編成まで幅広くやるようになりました。面白そうだなと思った仕事は何でも引き受けます。優秀なクリエイターがたくさんいる中、僕が唯一誇れるのは、やれるか分からないことにも挑戦して結果を出してきたことだと思うので。

それぞれの分野で好きな作家や憧れている人はいますが、そっくりそのままお手本にしている人はいません。ジャンルを超えて手掛けている人をあまり知らなくて。案件に応じて、ジャンルや役割ごとに都度スタッフィングしてチームで対応しています。それぞれの道のプロフェッショナルと組むことで、自分にはない知見やアイデアに出会えるのが魅力です。一方で、しっかり結果を残せるチームとアイデアを蓄積していくことは今の課題です。日本ではクリエイターに対する評価は依然低いので、クリエイター自身が価値や評価を獲得して発信していかなければならないと思っています。

2年前に出版した著書『イラスト映えBOOK ちょっとしたコツであなたの絵が見違える 魅せるイラストのアイデア 65』が、おかげさまで好調な売れ行きのよう

ローカルからデザインの在り方を考える。

2022/05/19 「NAGAYA Online Cafe vol.10」開催レポート

去る2022年5月19日にNAGAYA Online Cafe vol.10を開催しました。今回のテーマは「ローカルとデザイン」。奈良県吉野郡東吉野村に住みながら、デザイナーとして活動する坂本大祐さんをお呼びして、地方に移住するきっかけや、地方でクリエイターとして働く面白さ・難しさ、地方の事業者との向き合い方など、様々な視点からお話を伺いました。

坂本さんは、2006年に31歳で東吉野村に移住。2015年にコワーキングスペース「オフィスキャンプ東吉野」を立ち上げた後、2016年にこの施設を拠点とするクリエイティブファーム「合同会社オフィスキャンプ」を設立されました。

坂本さんのすごいところはなんといっても、手がけてきたプロジェクトの数と質です。わずかな予算、想定外の作業、地域の付き合い。そんな状況をおもしろがり、顔の見える関係性の中で仕事をしたり、店や場を作ったり、販路を見つめ直したりと多岐にわたる活躍をされています。ディレクションと手仕事を行き来しながら現場を動かし、その土地だからできるデザインを生む。そんなデザイナーという職業の魅力がぎゅっと詰まったお話をしてくださいました。坂本さんの取り組みについては、2022年3月に出版された著書『おもしろい地域には、おもしろいデザイナーがいる』にも詳しく書かれているので、ぜひ読んでみてください。

参加者の方々も、「なぜ東吉野村へ移住しようと思ったの?」「仕事のやりがいは何?」「ローカルの不動産問題ってどうなっている?」「私もローカルに住んでいるから、めちゃくちゃ共感した!」など対話の中での質問・感想がたくさんありました。坂本さん独自のユニークな発想や活動をただ知るだけでなく、一人ひとりの価値観、考え方を深く共有しあえるイベントになりました。

それぞれの環境からオフィスの括りを超えて参加いただいた皆さん、ありがとうございました。オンラインならではの交流に楽しさを感じられる会を引き続き企画していく予定ですので、お気軽に参加してくださいね! (書き手: 原田)



▲新山直広、坂本大祐 共編著
『おもしろい地域には、おもしろいデザイナーがいる』
地域 × デザインの実践 (学芸出版社)



今日だけ NAGAYA が本屋さん!?

2022/06/09-10 「門垣堂書店」 in NAGAYA ミニレポート

NAGAYA CAFE (青山)、NAGAYA イドバタ (清澄) とジョイントして3年ぶりの復活イベントとなりました。相変わらずパワフルな行商スタイルの本屋さんをオフィスいっぱい展開してもらいました。多数のご参加ありがとうございます!

NAGAYA サポーターからひとこと

NAGAYA の活動を見守り応援していただき、さまざまな分野のエキスパート「NAGAYA サポーター」からメッセージを頂いていますのでご紹介します。

神吉 宇一さん

(武蔵野大学 グローバル学部
日本語コミュニケーション学科
准教授)



コロナ禍により2020年から2年間、すべての授業がオンラインでした。オンラインでも専門知識は学べますが、場や空間がシェアされてないと、授業が終わった瞬間つながりも途切れ、必要最低限の授業のやりとりしか発生しません。

NAGAYA の根幹にある価値はシェア。シェアによって、人と人がつながり、雑談が発生し、新たな価値が創出されると思います。人が豊かに生きるためにはシェアが大切だと改めて強く感じています。

[NAGAYA 広瀬より]

宇一先生とは深川の市民芸術祭「アートバラ深川」のボランティア活動をきっかけに繋がりが始まりました。そのほかにも活動を共にしたり、情報交換をさせてもらう中で、いつもポジティブでプラス思考なところに感化されています。良い飲み友達でもあります (笑)

編集後記

NAGAYA 広報誌は、ご自分で起業された方々のお話をインタビューさせていただくことが多いです。

起業といえば、自分が実現したいセカイをつくる。それがどんなに面白く、楽しく、刺激を感じられることかを改めて実感した時間でした! (原田優香)

前職の上司は、タレントのような色鮮やかでおしゃれな服をよく着ていました。そういうファッションが好きなのかと思ったら「相手へ与える印象を考えて服を選ぶ」と聞き、とても衝撃を受けたことを覚えています。阿部さんのお話を伺って、自分自身の見せ方というものを改めて考えました。(吉澤瑠美)

執筆・編集: 原田優香、吉澤瑠美
コーディネート: 広瀬新明